

## PRIMERGY RX2520 M1

### ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY RX2520 M1 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2017年2月  
富士通株式会社

#### **1. UEFI モードについての留意**

UEFI モードの設定方法や OS 及びオプションのサポート状況に関しては、下記リンクをご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

#### **2. Intel TXT 機能についての留意**

本装置では Intel TXT 機能(\*1)はご使用になれません。

(\*1): Intel TXT 機能(インテル®トラステッド・エクゼキューション・テクノロジー)

#### **3. Power Control Mode (電力制御)機能についての注意**

Red Hat Enterprise Linux 6 update 5においてiRMC の Web I/F メニューから[Power Control Mode(電力制御)]の設定を"Minimum Power(省電力動作)"に設定しないでください。OS が起動不可となります。

上記設定でご使用になる場合は、必ず下記を実施してください。

a) OS インストール済の場合

/boot/grub/grub.conf の kernel 行に、blacklist=acpi\_pad を追加し、システムを再起動してください。

b) 新規に OS をインストールする場合

SVIM のカーネルパラメータ指定のメニューに blacklist=acpi\_pad を追加してください。

#### **4. Xeon プロセッサー E5-2470 v2 ご使用時の留意**

a) 本装置に Xeon プロセッサー E5-2470 v2 を搭載する場合は、BIOS1.9.0/iRMC7.38F 以降の適用が必要となります。

b) また、本装置 3.5 インチ HDD 12 本モデルに Xeon プロセッサー E5-2470 v2 を 2 つ搭載してご使用される場合、吸気温度 32°C 未満の環境にてご使用ください。

#### **5. リモートマネジメントコントローラアップグレード(PY-RMC41)使用時の注意**

iRMC FW 7.2xF 以前の版数をご使用の場合、2014年7月1日以降、一般オプションにてご購入いただいたiRMC アップグレードアクティベーションキーがご使用になれません。

(2014年6月30日までにアクティベーションを実施した場合、問題なくご使用頂けます)

アップグレードアクティベーションキーの適用前に、iRMC FW を 7.38F 以降の版数にアップデートしてください。

#### **6. ビデオリダイレクション(Advanced Video Redirection)ご使用時のキーボード入力について**

iRMC FW 7.38F をご使用の場合、iRMC S4 Web インターフェースのビデオリダイレクション(AVR)のご使用時に、キーボード入力ができない場合があります。AVR ウィンドウ内にあるメニューバーの「キーボード」メニュー - 「ソフトウェアキーボード」より、ご使用になる言語のソフトキーボード(仮想キーボード)を選択してご使用ください。

※iRMC FW7.68F 以降でこの問題が修正されています。

## 7. LTO 装置の搭載について

LTO 装置(PY\*LT411/PY\*LT511/PY\*LT611)をご使用の際は、  
BIOS 設定の [Advanced] メニューより、[Onboard Devices Configuration]  
サブメニューの各項目を以下の様に設定してください。

Onboard SAS/SATA (SCU)	: Enabled
SAS/SATA OpROM	: Enabled
SAS/SATA Driver	: Intel RSTe

## 8. Windows2008 環境での LAN カードご使用時の留意

Windows2008 環境の場合、LAN カードのタイミング機能はご利用になれません。  
タイミング機能をご使用になるためには、Windows2008 R2 以降にアップデートする必要があります。

## 9. ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報(IP アドレス / Teaming 設定など)が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能でるので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008 R2: KB2344941 , KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978 , KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2016 年 10 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/?ln=en-us>

・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。

OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

(1) デバイスマネージャを起動します。

コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1  
start devmgmt.msc
```

(2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

(3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

## 10. iRMC S4 のご使用上の留意・注意事項に関して

その他、iRMC S4に関するご使用上の留意・注意事項については、「iRMC S4(Integrated Remote Management Controller)ご使用上の留意・注意事項」をご確認ください。本留意・注意事項は下記リンクから、ご使用の機種を選択し、各サーバ本体の個別のマニュアルより参照いただけます。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>

## **11. ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY\*FC211(L))、Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY\*FC212(L))をご使用時の留意事項**

ファームウェア版数が 3.29 よりも古い版数が適用されたファイバーチャネルカード(8Gbps) (PY\*FC211(L))、または Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps) (PY\*FC212(L))を搭載し、サーバ本体の BIOS 版数が 1.17.0 より新しい版数が適用された場合、システム起動時に保守ランプが点滅し、システムイベントログ(SEL)に下記の重度(Major)のエラーログが記録されます。本メッセージに伴う、サーバ本体及びファイバーチャネルカードの動作に問題はありません。

本エラーログの発生を回避するには、ファイバーチャネルカードのファームウェア版数を 3.29 以降へアップデートしてください。最新版は下記ダウンロードページを確認してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/>

### [記録されるエラーログ]

```
CLP command to device in PCI slot [PCI スロット#] failed. Command not supported  
CLP command to device [デバイス名][デバイス ID] failed. Command not supported
```

※ ログは POST(Power-On Self-Test: 電源投入時自己診断)中に複数記録されます。

## **12. 内蔵データカートリッジドライブユニット(PY\*RD112)を Fixed Disk モードでご使用時の留意事項**

増設用 USB3.0 ポート(PY\*USP01(L))を搭載せずに内蔵データカートリッジドライブユニット(PY\*RD112)を Fixed Disk モードにてご使用時、「ハードウェアの安全な取り外し」よりカートリッジの取り外しが出来ない場合があります。

- (1) 「ハードウェアの安全な取り外し」が出来ない場合は、[コントロールパネル]-[ハードウェア]-[デバイスとプリンター]にてドライブのアイコンを右クリックし、「デバイスの削除」または「取り出し」により取り出しが行なってください。
- (2) 「ハードウェアの安全な取り外し」および[デバイスとプリンター]からの取り出しが不可能な場合に限り、イジェクトボタンをご使用ください。

※イジェクトボタンによるカートリッジの排出時には、必ずデータ書き込み等のカートリッジへのアクセスが無いことを確認の上、実行してください。

## **13. Linux 製品 ご使用時の設定**

PCI スロット 4~6 を使用するには論理 CPU 数を 9 個以上の構成にする必要があります。

論理 CPU が 8 個以下の場合、利用できないインターフェース機能が発生する場合があります。

—以上—